岡山県古代吉備文化財センター

所報吉備

75

September 2023

Okayama Prefectural Ancient Kibi Cultural Properties Center

第75号　令和5年9月〈年2回 3月·9月発行〉

佐良山古墳群で新たな古墳を発見

高尾宮ノ前遺跡　津山市高尾

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、昨年度に引き続き高尾宮ノ前遺跡の発掘調査を行っています。

この遺跡は、津山市街地の南西にある嵯峨山の丘陵南東端に位置し、佐良山古墳群の只中に存在します。眼下には、吉井川の支流である皿川が流れています。昨年度までの調査で縄文時代から室町時代までの遺構や遺物が見つかっています。

今年度は、丘陵東側の斜面を中心に調査を行っており、現在までに弥生時代の土坑、古墳時代の段状遺構や円墳、その他遺物は伴わないものの柱穴や溝を確認しています。

今回、新たに確認した古墳時代後期（６世紀後半）の円墳は、竪穴式石室を埋葬施設にもち、丘陵の傾斜が緩やかな地点から南側へ急傾斜となる、変換点で見つかりました。

竪穴式石室の内法規模は、長さ約188cm、幅が約35～50cm、残存高は約30～50cmを測ります。

空からみた円墳（南上空から）

側壁は比較的大きな石を２段積み上げ、その上に小ぶりな石を１～２段小口積みにして、構築しています。北東側の小口面は側壁と同じく比較的大きな石材が１段目に残存しており、側壁で小口面を挟み込んでいます。一方で南西側の小口面は、反対側とは異なり、側壁の外側に板石状の石材１枚を立てて構築しています。天井石は石室中央部に１枚残存していました。

副葬品としては、石室の北東側の小口面付近で須恵器の杯蓋と鉄器が各１点見つかっています。また、石室の北東側には弧を描くような溝が見つかっており、円墳の周溝と考えられます。この周溝の範囲から推定すると、円墳の直径は約10m弱であったと考えられます。

近くに古墳時代後期の段状遺構も見つかっていることから、６世紀後半から７世紀初頭における人々の活動の一端が明らかとなりました。（藤井雄一）

竪穴式石室（南東から）

石室内の杯蓋・鉄器出土状況（東から）

向山遺跡　瀬戸内市長船町

瀬戸内市長船町に所在する向山遺跡で、干田川の改修事業に伴い令和５年６月から７月にかけて発掘調査を行いました。本遺跡は干田川に向かって突き出した丘陵の先端に位置しており、古墳時代から室町時代にかけての遺物が出土する散布地として知られています。

今回は南へ下がる丘陵の縁辺部を調査し、鎌倉・室町時代の水田層や溝を確認しました。さらに、これらの下層に弥生時代前期の土器などを含む層を確認しました。出土した遺物は、弥生時代前期の土器やサヌカイト片のほか、須恵器、土師器、備前焼、青磁、白磁などです。特に弥生時代前期の土器は、瀬戸内市での発見事例が少ないため注目されます。また、平安時代末から室町時代の土器も多く出土することから、調査区の背後に迫る丘陵の上では弥生時代前期から中世にかけて断続的に集落が営まれていた可能性が高まりました。

なお、７月 20 日に周辺地域の住民の方を対象に現地説明会を開催しました。参加された 27 名の方には調査の成果や発掘現場での作業の様子を見学していただきました。（杉浦香菜子）

遺跡西側全景（東から）

現地説明会風景

「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業

当センターは「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として、令和２年度から令和４年度までこうもり塚古墳の研究を行ってきました。

３月には、３年間の事業の総まとめとして、文献史学と考古学から“こうもり塚古墳”を探究した「史跡こうもり塚古墳シンポジウム－吉備最後の大型前方後円墳とその時代－」を開催しました。

シンポジウムでは、こうもり塚古墳の測量・発掘調査の成果を報告するだけでなく、文献からみた当時の吉備について、岡山大学の今津勝紀先生にご講演いただきました。また、その後のパネルディスカッションでは、岡山理科大学の亀田修一先生と岡山大学の清家章先生に加わっていただき、こうもり塚古墳の位置付け、被葬者の人物像や大和政権との関係について、白熱した議論が繰り広げられました。来場者からは、「考古学と文献史の双方の話を聞けて面白かった」「パネルディスカッションでは先生方の意見交換が楽しかった」などの感想をいただきました。

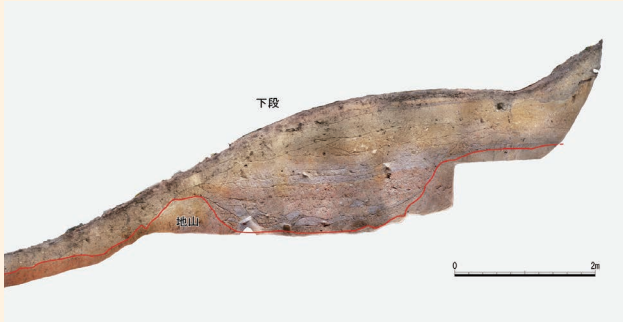
また３月末には史跡こうもり塚古墳総合調査報告書を刊行しました。この報告書では、赤色立体図やSfMを用いたオルソ画像といった最新の調査手法を用いた今回の調査成果だけでなく、昭和42年・昭和53年に行われた過去の調査成果やこうもり塚古墳と関連する他の古墳についての調査成果までまとめた一冊です。当センターでも有償頒布していますので、ぜひお求めください。

こうもり塚古墳の調査に続いて、今年度からは備中国分尼寺跡の総合調査を実施しています。備中国分尼寺跡は、金堂跡や講堂跡では礎石が露出し、寺域の南側には土を付き固めて造られた塀である築地が認められるなど、良好な状態を保っている遺跡です。しかしながら、本格的な発掘調査は行われておらず、秋から始まる今回の発掘調査が、大正11（1922）年の国史跡指定以来初の本格的な寺域内の調査となります。今年度からの調査で今までわからなかった建物や築地の構造、建物の配置などを解明していきたいと思います。調査成果はホームページで随時発信しますので、ぜひご覧ください。

（藤井雅大）

こうもり塚古墳（南東上空から）

シンポジウムのパネルディスカッション風景



こうもり塚古墳の墳丘断面のオルソ画像図

備中国分尼寺跡の講堂跡の礎石（南東から）

令和５年度企画展１・２

令和５年４月19日（水曜日）から、センター展示室で令和５年度企画展１「広がるムラとその景観－城殿山遺跡・和田谷遺跡・マキサヤ遺跡の発掘調査成果から－」を開催しています。

城殿山遺跡・和田谷遺跡・マキサヤ遺跡は浅口市と里庄町に所在する遺跡です。一般国道２号（玉島・笠岡道路）改築工事に伴って当センターが発掘調査を実施したところ、縄文時代から室町時代のムラや墓を発見しました。展示室では、これらの遺跡から見つかった各時代のムラの様子が分かる出土品を展示しています。

瀬戸内海に面した岡山県では古くから海運を通じた地域間の交流や物流が盛んに行われていました。展示品の縄文時代の土器や石器は、四国地方との深い関係をうかがわせるものです。また、古墳時代から奈良時代にかけてのものとされる鉄滓（鉄を溶かした際にできる不純物のかたまり）が見つかりましたが、これは当時のムラで鍛冶が営まれていたことを表します。

会期は10月15日（日曜日）までとなっています。

なお、令和５年度企画展２につきましては、「岡山県の刀剣―刀剣が語る古墳時代―」を開催します。会期は10月18日（水曜日）から令和６年４月14日（日曜日）までを予定しております。こちらもぜひご覧ください。

（岩橋惇也）

展示の様子

【新発見の資料】　菩薩像を線刻した鏡像

高尾北ヤシキ遺跡は津山市高尾に所在し、令和２年１月から令和４年３月にかけて、一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴って発掘調査を行った弥生時代から室町時代の集落跡です。

このたび、高尾北ヤシキ遺跡で出土した青銅製品が菩薩像を線刻した鏡像であることが分かりました。鏡像とは、懸仏とともに御正体と呼ばれ、鏡面に神像や仏像をあらわした信仰物のことです。高尾北ヤシキ遺跡の発掘調査では、鏡像が室町時代前半の段状遺構に伴う小さな穴の上面で、裏面を上に向けて水平に置かれた状態で見つかりました。ただ、鏡像が出土した時は、表裏面が土やサビに覆われていて、詳しいことはよく分かりませんでした。

高尾北ヤシキ遺跡から出土した鏡像

（※白線は菩薩像の線刻部分を合成したものです）

そこで、令和４年４月から10か月間、鏡像を覆う土砂やサビを取り除き、保存のための処理を行ったところ、表面に仏像が線刻されていることが明らかになりました。

鏡像は直径11.8cm、厚さ１mm前後の円形板状で、周りに細い縁がめぐり、一部に吊り手があります。仏像は左斜めを向いた坐像が極めて細い線で刻まれ、宝冠、条帛、胸飾などの表現や右手に剣を立てて持つことから、文殊菩薩像、又は虚空蔵菩薩像の可能性があります。この鏡像は、形態や製作技術により平安時代後期～鎌倉時代初期（13世紀前後）に作られ、出土状況から室町時代前半（14世紀後半）に埋納されたとみられます。つまり、150年近く長期間にわたって信仰されたと考えられ、美作地域における中世の信仰を考えるうえで注目されます。　（米田克彦）

報告会「大地からの便り2023」　令和５年7月1日（土曜日）

７月１日（土曜日）に岡山県立美術館ホールにおいて、近年発掘調査を行った遺跡の調査成果を紹介する報告会を開催しました。当日は雨模様にもかかわらず、141 名もの方に参加していただきました。今回の報告は、高梁市教育委員会による備中松山城跡（高梁市）と矢掛町教育委員会の毎戸遺跡（矢掛町）のほか、村支援として当センターが新庄村教育委員会と調査を実施した中ノ谷横穴墓（新庄村）、当センターが調査を行った高尾宮ノ前遺跡（津山市）の４遺跡について行いました。

各報告後に会場からいただいた質問には、発表者が答えに窮するような鋭いものもあり、皆さんが非常に興味を持っていただいていることが分かりました。また、皆様から寄せられたアンケートには、「説明が非常に分かりやすく丁寧だった」、「今後の調査や整理に期待する」、「次回も参加したい」などの好意的な回答以外にも、運営上の指摘もあり、次回の報告会に向けて改善していきたいと思います。

（小嶋善邦）

発表の様子（左：矢掛町教育委員会　西野氏、右：高梁市教育委員会　三浦氏）

夏休み企画☆ワクワク古代体験！　令和5年7月25日（火曜日）～28日（金曜日）

人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。今回は勾玉と鏡をつくる古代体験と、南山城跡（倉敷市）や伊福定国前遺跡（岡山市北区）のパネルや出土品の展示を通じて地元の歴史に親しんでもらおうというコーナーを設けました。

４日間で、小中学生から大人まで 704 名の方々にご参加いただきました。古代体験では、勾玉や鏡についての説明を聞いたのち、それぞれの体験に熱心に取り組んでいました。参加者からは「普通ではできない体験ができて良かった」、「昔の人のモノづくりの大変さを実感した」、「昔の人々がどれだけ知恵をこらして、技術を現代につなげているのか改めて考えさせられた」という感想や、「講師のマニアックな古墳のこぼれ話が楽しかった」という言葉もいただきました。今後も、当センターの夏休みの恒例イベントとして、開催していきたいと考えています。

（小林有紀子）

鏡づくり：鏡面みがきに全集中！

勾玉づくり：勾玉みがきの極意を伝授!?

令和５年度下半期の催し物案内

吉備の考古学講座

岡山県内の発掘調査成果をもとに、当センター職員による全２回の講義を行います。

演題：「瓦からみる備中国分寺・国分尼寺創建への道のり」
日時：令和６年3月2日（土曜日）　午後１時30分～３時
会場：岡山県立図書館多目的ホール（岡山市北区丸の内）
定員：120名（県立図書館への事前申込が必要）

津島遺跡やよいまつり

昨年度の収穫体験の様子

津島遺跡で、火起こしや勾玉づくり、古代米の収穫などのやよい体験を行い、津島遺跡について解説します。

日時：10月21日・22日（土・日曜日）　午前10時～午後３時
会場：岡山県総合グラウンド（岡山市北区いずみ町）
定員：なし（勾玉づくりは当日要申込）

講演会「古墳時代の刀剣」

豊島直博氏（奈良大学文学部教授）、齋藤大輔氏（島根県立八雲立つ風土記の丘学芸員）を講師に迎え、刀剣からみた古墳時代の有り様について講演いただきます。

日時：11月18日（土曜日）　午後１時～４時
会場：岡山県立美術館ホール（岡山市北区天神町）
定員：200名（申込多数の場合は抽選）

吉備路ウォーク

昨年度の解説の様子

吉備路地域の遺跡を歩いて巡り、その歴史について学びます。今年度は備中国分寺跡・国分尼寺跡やこうもり塚古墳の解説を行います。

日時：12月２日（土曜日）　午前10時～
会場：吉備路風土記の丘県立自然公園（総社市上林）周辺
定員：30名（申込多数の場合は抽選）

吉備の史跡を巡る

岡山県内の著名な史跡を実際に訪れ、当センター職員が解説を行います。今回は、天正10（1582）年に宇喜多氏と毛利氏が戦った八浜合戦の舞台となった山城を巡ります。

日時：令和６年２月17日（土曜日）　午後１時～
会場：両児山城跡（玉野市八浜町）
定員：30名（申込多数の場合は抽選）

「発掘された日本列島2023」展に出品しています

文化庁では平成７年度から、近年発掘調査が行われた遺跡の中で広く注目を集めた遺跡を取り上げ、全国を巡回する「発掘された日本列島」展を開催しています。今年度の展示には、当センターで平成30年から令和２年にかけて調査を行った津山市に所在する佐良山古墳群の支群である桑山古墳群、桑山南古墳群、細畝古墳群、高尾北ヤシキ古墳が取り上げられました。これらの古墳から出土した遺物は全国的に見ても貴重なものが多く含まれていますので、会場で実物をご覧いただければと思います。

（藤井雅大）

会　場	会　期
山梨県立考古博物館	令和5年9月16日（土）～10月29日（日）
対馬博物館	令和5年11月11日（土）～令和6年1月8日（月・祝）

鈴付高杯とそのX線写真

（左：桑山南１号墳/右：桑山５号墳）

内部に土製丸が入っており、振るとカラカラと音がなります。X線写真を撮影したところ、左は脚の最下段に２個の土製丸が、右は膨らんだ脚上端部に１個の土製丸が入っていることがわかりました。高さ左9.1cm/右17.8cm。

皮袋形瓶（高尾北ヤシキ古墳）

革で作られた水筒に似せて作られた須恵器です。口の近くには小さな孔が両側に開けられており、別に作った飲み口を取り付けられるようになっているようです。高さ17.8cm。

子持壺　（桑山５号墳）

脚付きの壺です。壺の肩に10個の子壺が付けられていたようですが、現状では５個のみが残っています。高さ47cm。

筒形土製品

（高尾北ヤシキ古墳）

上部に煙出しの孔が斜めに開けられています。カマドや炉の煙を屋外に排出するための煙突であると考えられます。高さ104.2cm。

「発掘された日本列島 2023」展出品遺物（一部）

おかやまの遺跡を掘る vol.14

—中町Ｂ遺跡（美作市中町）—

◆よみがえる古代の因幡道

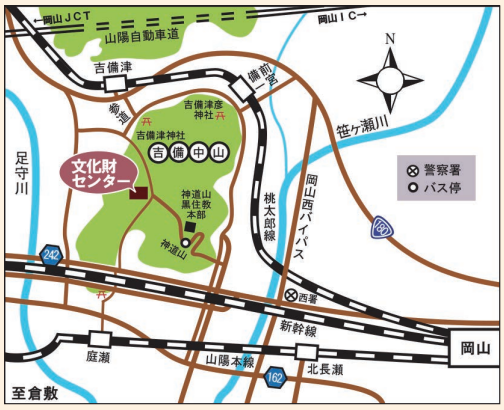
中町Ｂ遺跡は、岡山県の北東部、美作市大原地域（旧大原町）に位置しています。北は西粟倉村をはさんで鳥取県智頭町に至り、東は兵庫県佐用町と隣りあう県境の街です。遺跡は、吉井川の支流である吉野川東岸の幅の狭い平野にあり、中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）の建設に伴って平成 16・17 年に発掘調査を行いました。

調査では、全長約 168 ｍにわたって南北方向に直線的に平行して伸びる２条の溝と波板状の凹凸面が見つかりました。これらの溝は道路の東西につくられた側溝で、側溝にはさまれた部分が道路の路面にあたり、道幅は約６ｍもあります。路面自体は削られて残っていませんでしたが、側溝の間で部分的に見つかった波板状の凹凸面は、路面を補強するための基礎工事の跡のようです。側溝の中や周辺からは奈良～平安時代の須恵器などが出土していて、道路は古代に使われていたと考えられます。

見つかった古代の因幡道（南から）

中町Ｂ遺跡で見つかった道路は、道幅が広く、北側は山が途切れて平野が一番狭くなった箇所を目指して直線的に築かれています。これらは古代に国家がつくった官道の特徴と同じで、遺跡の位置からみて古代の因幡道と考えられます。因幡道は播磨国（兵庫県南西部）と因幡国（鳥取県東部）を結ぶ古代の官道で、現在の兵庫県佐用町で美作道から枝分かれして、兵庫・岡山県境の釜坂峠を通って吉野川沿いを北に進み、志戸坂峠を越えて鳥取県側に抜けるルートが想定されています。調査で見つかった古代因幡道は、中世には使われなくなりますが、その後ルートを変え、江戸時代には鳥取藩主が参勤交代に利用した因幡往来に引き継がれるようです。古代の官道は現代で言うところの高速道路にあたりますが、鳥取自動車道の建設に伴う発掘調査で古代因幡道の姿が明らかになったことは、今も昔も変わらず大原地域が山陽と山陰を結ぶ交通の要衝であることを示しています。　（石田爲成）

波板状の凹凸面（北西から）



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地　〒701-0136　岡山市北区西花尻 1325-3
TEL（086）293-3211　FAX（086）293-0142
https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/
https://www.facebook.com/okayama.pref.kodai

◎ 交通案内　JR 山陽本線庭瀬駅下車徒歩 40 分
JR 桃太郎線吉備津駅下車徒歩 25 分

◎ 業務時間　AM8:30 ～ PM5:15

◎ 休業日　土・日曜日及び祝日、年末・年始

◎ 展示室の開館　AM9:00 ～ PM5:00
年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

ひろげよう あふれる笑顔と 思いやり

VEGETABLE OIL INK